

能因歌枕

平安中期の歌人である能因(688年?)による『能因歌枕』の「国々の所々名」の「しなのゝ国」の箇所「とかくし」がある。現存本は原撰本の一部であろうともいわれているので、能因が活躍したこの時代には戸隠の名がすでに都に知られていたとみてよいだろう。ただし、この時代に戸隠を歌った作品は未詳。たかみくら山をもつて戸隠山とし、たかみくら山を歌ったものがそれとする説もある。

さかさま川 きはふの里 ちくま河 さらしな

あふちの関 はゝ木々 おはすて山 まつかわ

うらの里 きそのかけはし もち月 あさまのたけ

こまかたけ とかくし そのはら

註 「新日本古典籍総合データベース」に元禄9(1696)

年の「能因歌枕」の画像がある。50コマ目。

DOI 10.20730/200000310

川村晃生・能因歌枕研究会による京都女子大学図書館蔵の翻刻が「三田國文」No.5(1986. 6), p.33-80に掲載され、ネット公開されている。